

大谷祖廟報恩講

## 問いに生きる一立教開宗のころ

高山 四衢 亮

### <歎異抄第7章>

念仏者は、無碍の一道なり。そのいわれいかんとならば、信心の行者には、天神地祇も敬伏し、魔界外道も障碍することなし。罪悪も業報を感ずることあたわず、諸善もおよぶことなきゆえに、無碍の一道なりと云々

### <人間の罪業性>

その一つの悪というは、諸天人民蠕動の類、衆悪を為らんと欲えり。みな然らざるはなし。強き者は弱きを伏す。転た相剋賊し残害殺戮して迭いに相吞噬す。善を修することを知らず。悪逆無道にして後に殃罰を受く。

(『仏説無量寿経』下卷五悪段)

### <人間の五つの畏れ>

証歎喜地生安楽 歎喜地を証して、安楽に生ぜん、と。(『正信偈』)

歎喜地→人間の五つの畏れを超えた境地

- ① 死の畏れ
- ② 不活の畏れ
- ③ 悪名の畏れ
- ④ 墮地獄の畏れ
- ⑤ 大衆威徳の畏れ

### <魔界外道とは>

魔=サンスクリット語m a r aに相当する音写。

m a r a = 殺す。破戒する。死。疫病 (ペスト)。

「慧命を奪い、道法功德善本を壊る。この故に名づけて魔と為す」

(『大智度論』5)

仏教の〈魔〉はキリスト教など他宗教の悪魔とは著しく性格を異にする。仏教の〈魔〉のもつ多様で複雑な性格を一言で現すことは難しいが、人の生命を奪い、仏道修行などもろもろの善事に妨害をなすというのがおそらくはその根本性格であろう。(『仏教辞典』岩波書店・『梵和辞典』講談社)

## ◎魔の特徴

- ① 人の弱点を襲う。
- ② 魔の世界に閉じ込めようとする。

### <自力>

異学というのは、聖道外道におもむきて、余行を修し、余仏を念ず、吉日良辰をえらび、占相祭祀をこのむものなり。これは外道なり。これらはひとえに自力をたのむものなり。別解は、念仏をしながら、他力をたのまぬなり。別というのは、ひとつなることをふたつにわかちなすことばなり。解は、さとりという、とくということばなり。念仏をしながら自力にさとりなすなり。かるがゆえに、別解というなり。  
(親鸞聖人『一念多念文意』)

### <信心の歩み>

凡夫というのは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむところもおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえずと、水火二河のたとえにあらわれたり。かかるあさましきわれら、願力の白道を一分二分、ようようずつあゆみゆけば、無碍光仏のひかり御ころにおさめとりたまうがゆえに、かならず安楽浄土へいたれば、弥陀如来とおなじく、かの正覺のはなに化生して、大般涅槃のさとりをひらかしむるをむねとせしむべしとなり。これを致使凡夫念即生ともうすなり。二河のたとえに、一分二分ゆくというのは、一年二年すぎゆくにたとえたるなり。

(親鸞聖人『一念多念文意』)